

水産学部ホームページ奮戦記

水産学部 海洋生物化学講座
松林法寛



はじめに

水産学部のホームページは1995年7月3日に立ち上げました。この原稿を書き始めた1998年2月、ホームページの表紙のカウンターの数字は48,344となっています。年間2万件以上のアクセス数に改めて驚いています。今回、長崎大学総合情報処理センターのセンターレポートにホームページの紹介、作成奮戦記をとのお話がありました。センターレポートを読んでも理解できるところがない私がなぜこの文を書く羽目になったか、以下を読んでいただければご理解いただけると思います。素人にはおそれ多いことですが、素人でもわかる文章も話の種にはなるのではと思います、水産学部ホームページ奮戦記を始めたいと思います。

背景

最近のことはよく覚えているのですが、数年前となると、とんと記憶にありません。教授会でセンターの話がたびたびでてきたことをかすかに記憶しています。そのうち廊下に電線が張りめぐらされ、部屋の前にへんてこな箱が取り付けられ、ただでさえ汚らしい廊下がよけいごちゃごちゃしても、それだけのこと。ところがところが、世の中には物好きがいるものでこの電線にパソコンをつないで遊んでいる人がこの水産学部にいたのです。その先生の言うことはちんぷんかんぷん、耳に入る言葉はカタカナば

かりで、モザイクとかなじみの言葉はよくわかるのですが、でも百聞は一見にしかず、よく言ったもので、パソコンのテレビの画面にいろいろと出て来るではありませんか。ふーん電線はこんなにして使うのか。納得。

早速パソコン屋さんに電話をし、電線をつないで貰いました。すると見えるではありませんか！ダウンロード、ブラウザー、ウェブ、ネット、アドレス、ホームページ、リンク、メール、カタカナ言葉もずいぶんたくさん曖昧なまま覚えました、結果良ければすべてよし、まあそんなもんじゃ。

ところが、ところが話は大変なことになってしまったのです。先の先生、アメリカの大学のホームページを見て回るのが趣味？それを私に見せて曰く、“日本もそのうちこんなになるぜ、どうするや、先んずれば則ち人を制し後るれば則ち人に制せらる”。この先生なしには私のパソコンは動かない状況下、脅迫以外の何物でもありませんが、弱者は弱者、煽動に乗らないわけにはいきません。

始まり

私のカタカナ語の語彙がまた一つ増えました。ユニックス、サーバー？英語も覚えました。HTTP、html？先の先生曰く“立ち上げるとしたらウィンドウズ上で動くサーバーでないといふユニックスが無いけんどうしようもなか、俺がこっちをやるけんあんた html ファイルば作らんね。一応立ち上げて既成事実ば作ってみようや”。ふーん、パソコンやインターネットのことなんて本を読めばわかる。日曜日、こっそり本屋に行ってインターネットの本を探しました。ありました、数冊。ところが、ところが、昨今の本屋には私向けの易しい本がたくさん並んでいますが、当時、読んでわかるような本がないのです。忘れていました、コンピュータのこと、本を読んでわかるくらいならあの先生の世話にならなくても私のパソコンが動くはずであることを。でも、数冊あった本のうち一番(わかり)安い本を一冊買ってきました。家で読んだのですが、ネットがどうのこうの接続がどうのこうの、案の定、枕以外の用を果たしませんでした。(枕にも厚みが足りません。今どこにあるのかそれすらわかりません。)

盛者必衰の理、いつの世も弱者の努力がこの理を実現したのだと言う歴史上の事実を頼りにがんばるしかありません。今に見ている僕だって。しかし、世の中良くできたもので、あの先生、強者のおごり、見せてくれるではありませんか。ブラウザーでホームページを読み込み、ビューを選択すると html ファイルの中身が読めるではありませんか。ワードスターで文章を書くときタグをつけて印刷様式を設定するのと同じじゃありませんか。仕組みさえわかればこっちのもの。一週間です。(後で人に聞かれたときは、このように答えています。あんなのそんなに難しくありませんよ一週間で書きましたよ。その前の四苦八苦は誰も知りません。)

先の先生もずいぶん苦労したみたいで、やっと窓95上で動くアリババというソフトをインターネットからダウンロードしてご自分のパソコンにインストールして、一応使える状況になりました。毎年夏に学部説明会がある、そのとき高校生に見せると言うことで実際に立ち上げようと話がトントンと進み、教授会でそのように報告しました。しかし、そこでまた壁があったのです。

またカタカナ語を覚えました。ドメインネームサーバー？ホームページのアドレスには必ずと言っていいほど WWW というのが付いているではありませんか。(最近辞書を引いて蜘蛛の巣の意であることがわかりました、どうりで、一端係わると厄介だ！)やはりよそと同じようにしないとかわるい。どうしたらいいの？さらに、ダウンロードしたアリババは試供品で有効期限30日とのことです。ソフトの使用に関しては後進国の私もこの30日しか使えないと言うのにはあきれてしまいました。そこで、先の先生と二人して情報処理センターの花田先生にいろいろと教えていただき、とりあえずセンターのユニックス上で本学部のホームページが立ち上がりました。たぶんこの日が、かの国の独立記念日の1日前、1995年7月3日と記憶しています。(一日でも早いのは気分がいいものです)

たなぼた

とりあえず立ち上げましたが、なにせ1週間、英語版も未完成、センターにおいておくとカタカナ言葉に洗脳されるのではないかと、いろいろとありまして。結局、アリババさんにお金を取られ、一月ほどでユニックスから学部へ引っ越してきました。その後、まあそんなもんじゃ、うちのホームページはよそより早かたバイ、ハッハッハと過ごしていました。するとまた、かの先生、庶務からこんなとば言うてきた、と紙を見せる(押しつける)ではありませんか。窓95にもやっと慣れ立場は強くなっているはずですが、習慣とは恐ろしいものでつい読んでしまいました。文部省のなんとかが今度大学のホームページの懸賞募集をするについての応募要項です。こういうものは応募してなんぼのもの、出すだけ出そうじゃないかということを書き始めたのはよいのですが…。なんと、カウンターはつけているか、フレーム機能は、…私が知らない機能がたくさん並んでいるではないですか。一年半前、始めたときはそんなの無かったのに。たしかに、よそのホームページをいろいろと見てみると、花電車みたいです。桑田変じて蒼海となる。

応募するのは良いけれど、このままではということで、せめてカウンターぐらいはつけとかんとかっこ悪いと言うことになり、一年半前状況の再現です。窓95で動いているアリババにどのようにしてカウンターをつけるのか、アリババの説明書は英語で、しかも例に漏れず、読まないでもできる人用の説明書です。終日四苦八苦、やっとこさカウンターをつけました。ほかの機能はどうしようもありません。応募用紙には、“今日の通信事情を考えると、重たくなるような機能はできるだけさけるようにしている。”と言うようなことを書いて応募しました。石に漱ぎ、流れに枕す。

ところが、ところが当たってしまいました。それから約1年、水産学部のホームページに文部省大臣官房からの賞状と横山学長からの感謝状が掲載されていました。ところが、ところがこういうのには必ず景品がついているとばかり思っていたのに、紙切れ2枚で終わりだということです。あの努力は何だったのだ。私も、これまで数多くのしょう(原付、自動二輪、自家用車の免許しょう)を貰ってきましたが、景品付きの賞を頂いた経験がありません。事務長にせめて紅白饅頭でも…と言っていたところ、なんと年度末のどさくさにホームページ用のパソコン、しかもサーバーモデルでCPUがふたつもついたので買ってもらいました。まさにたなぼた。渡る世間に鬼はなし。

それまで学生実験用の吸光度計に付属のパソコンで動いていたのがまともなパソコンに引っ越したとたん、なんと、なんと見違えるように早くなったではありませんか。通信事情のためばかりではありませんでした、文部省の担当者の皆様申し訳ありませんでした。感謝しております。

その後

ここまで書き進んで、ホームページのカウンターを見てみると、日本語版48、421回、英語版は22、902回となっています。世界中の人々の誰かが常に我が社のホームページを閲覧している状況です。また、国内、国外からいろんな問い合わせが頻繁に寄せられて来るようになっています。なかでも、海の生物についての問い合わせが多く、学部教官全員の協力の下に運営されている状況です。

学部外への情報発信だけでなく、学部内向けのページの充実も図っています。研究室に配属した学生は身近に通信環境を利用できますが、3年次生までの学生は図書館を利用するしかありませんでした。これも、事務の方の努力で、1年前から、学部学生が24時間自由に使えるように、学部内にパソコンsを設置していただきました。このパソコンs向けにネットスケープの使い方や、電子メールの使い方の説明、就職情報等の発信などを行っています。現在このパソコンsの前は学生のたまり場になっています。

これから

数年前と較べると、通信環境の整備、情報発信密度の格段の進歩を体で感じるができるようになって

りました。他学部のホームページもすばらしいものが出来、本学部もそろそろ学部と社会の接点としてのホームページのあり方について真剣に考えていかなければという昨今です。また、学部内での利用方法、それによって生み出される利点を考えると、数年内には現在より数段充実した形になっているのではと想像しています。現在、本学部のホームページの実務的な問題は3名の素人の集団がそれぞれ分担して運営しています。しかし、パソコンによるデータベースの提供、相互通信の密度増加を考えると、早晚運営に問題を生じるのではないかと心配しています。素人の集団がホームページを立ち上げることができたのは、私が教授会で寝ている間に、学部内に電線を張り巡らせる先見の明と予算によるところが大きいと考えています。今後、運営面でも、情報処理センターの魁たる役割に大きく期待しながらこの駄文をおしまいにしたいと思います。